

SF ベイエリア発、注目の印象派モダンジャズギタリスト ハリスト・ヴィチェヴ【Hristo Vitchev】

今年3月に来日し、ジャパン・ツアーを行なった注目のモダンジャズギタリスト、ハリスト・ヴィチェヴ。

来日前からメールで頻りに連絡を取り合い、最新作『ファミリー・フィールズ』を含めて、彼が参加した数々のアルバムを送ってくれた。そのギターを聴き込んで、横浜のジャズ・クラブ「FAR OUT」で生のギターを体感したが、テクニックだけでなく、叙情的で色彩感にも溢れ、大胆且つ洗練されたサウンドに素直に感動した。また、ギター・プレイだけでなく、その人柄もナイスガイだ。早くも来年2月に再来日が決定しているハリスト・ヴィチェヴに話を聞いた。

【2015年5月 取材・文：加瀬正之】



★今年3月のジャパン・ツアーはいかがでしたか？ 日本での一番の思い出についても聞かせて下さい。

僕のカルテットでのジャパン・ツアーは最高だった。僕らは世界中で最も素敵で尊敬に値する観客の前でのライブ・パフォーマンスで、毎晩本当に最高の時間を過ごしたよ。日本という国、日本の人々や文化、伝統、食べ物もとても美しく感激させられているし、日本の人々の芸術に対する情熱と愛情にも感心させられている。何と云うか、僕らは日本、そして、日本の人々に恋しているんだ(笑)。記すには数ページは必要なくらいツアーの中でたくさんの素晴らしい思い出があるんだけど、個人的には富士山を見たことは間違いなく素晴らしい思い出のひとつだった。それはほとんど神聖な経験だったね！

★最新アルバム『ファミリー・フィールズ』は素晴らしいアルバムですね！ このアルバムはあなたの音楽家としてのキャリアの中でどのような作品になりましたか？

『ファミリー・フィールズ』は僕の人生の旅に誘惑されて以来、僕にとってとても特別な作品になった。僕は東欧のブルガリア・ソフィアで生まれて、それから南アメリカに移って、最終的にもっとも幼い年でアメリカに来たんだ。西側で育ったんだけど、常に東側、特に僕の母国にとっても強い魅力や引力を感じていたんだ。28歳くらいの時に、毎年母国に戻る機会があって、僕のルーツ、母国の人々や伝統等を学んだり、接する機会があったんだ。その時の僕のルーツや文化の再発見は、初めてその土地に足を踏み入れたような感じで、僕にとってとても新鮮だったけれど、同時にとても親しみを感じたんだ。だから、アルバムのタイトルを『ファミリー・フィールズ』に決めたんだよ。

★あなたのバンドのメンバーについて聞かせて下さい。

ハリスト・ヴィチェヴ・カルテットは、素晴らしいブラジル出身のピアニストで、ラテン・グラミー賞にノミネートされたウェバー・ラゴ(ジャズナム・タヤ・シン)。カリフォルニア・サンタクルーズ出身のベースの名手ダン・ロピンス。そして、アメリカ西海岸で最も優れたドラマーの一人マイク・シャンで構成されているんだ。バンドのメンバーは僕にとって兄弟のようで、僕たちは皆家族のように感じている。一緒に音楽を創造できることは名誉で喜びでもあり、彼らの全ての才能とスピリットにはいくら感謝しても感謝し切れないほどなんだ。

★ギターを弾き始めたのはいつ頃ですか？ また、ギターを手にした経緯について聞かせて下さい。

ギターを弾き始めたのは12歳の時だね。当時僕は80年代のロック・バンドにどっぷりとはまっていた、たくさんの音楽を聴いていたんだ。それまで楽器なんか全く弾いたことがなかったんだけど、僕のおばあちゃんが地元の音楽学校のギター・レッスンに通わせてくれてね。その時以来、僕の人生は完全に変わって、音楽とギターが僕の人生の旅の中心になっているんだ。

★子供の頃はどんな音楽を聴いていたのですか？ また、憧れていたミュージシャンは誰ですか？

僕が最初にギターを弾き始めた時は、ヘヴィー・メタルやハード・ロック・バンド、ブラック・サバス、ディープ・パープル、アイアン・メイデンやメタリカ等、イギリスやアメリカの代表的なロックの象徴といえるバンドにしか興味がなかった。音楽について学ぶうちに、僕の耳と好みが進化し始めて、より一層楽器を聴き始めたんだ。ジェフ・ベックやスティヴィー・ヴァイ、ジョー・サトリアー二等のようなギター音楽をね。だけど、それは必ずロックというジャンルの範疇だったんだ。僕にとってのジャズの発見は偶然のような出来事だった。僕が21歳の時に友達がジャズのコンサートに連れて行ってくれたんだけど、そのことが僕の音楽的視野を変えてくれたんだよ。僕がああに聴いた色彩、音の色合いやサウンドの質感は、今だに僕の中で共鳴している。その時に見たバンドがウォレス・ルーニー・クインテットだったんだ。

★あなたにはあなたにしか出せない特別なギターのサウンドがありますが、どのようにして自分のサウンドをものにしたのですか？

まず第一に、そのような難しい言葉に心から感謝したいね。僕が最初にジャズを学び始めた時に影響を受けるのはビル・エヴァンスやキース・ジャレット、ミシェル・ペトルチアーニ等のような主にピアノ・プレイヤーだったんだよ(笑)。今でも、ギタリストよりも他の楽器で演奏された音楽をたくさん聴いているんだ。僕のお気に入りのプレイヤーは、E.S.T.(エスション・スペンソン・トリオ)や素晴らしいノルウェイ出身のピアニスト、トルド・グスタフセンだね。後にプレイヤーと作曲家としての両面からパット・メセニーには強い影響を受けたよ。僕のギター・サウンドはそういった様々な影響の組み合わせから進化したものだと思っています。どのミュージシャンも言うだろうけど、僕らはそれぞれの音楽のそういった進化・発展をいつも探し求めているんだ。

★作曲はギターでするのですか？ 今回のジャパン・ツアーをもとに日本に関する新曲を聴いてみたいですね！

作曲は主にピアノでするんだ。ギターで作曲したのは1曲か2曲だけだったと思うよ。僕その他全ての作業はピアノで始まりピアノで終わるんだ。僕にとってピアノは指先の下に完全にオーケストラを持っているような気持ちになるし、作曲の時に全ての色合いや直接的な選択肢を持つことは、僕の音楽的アイデアを実現可能にするためにとても助けになるんだ。今回のジャパン・ツアーから間違いないくらいさんのインスピレーションと魔法のような瞬間を得たし、そのいくつかは既に来年2016年1月に世界中でリリース予定の新作『イン・サーチ・オブ・ワンダーズ』に収録予定の新曲になっているよ。僕はこの新しい音楽を2016年2月から3月にかけて14日間に渡るジャパン・ツアーに持って行くことが待ち遠しいんだ。(P19 下参照)

★サンフランシスコを拠点に活動されていますが、サンフランシスコに移った経緯と現在の音楽シーンについて聞かせて下さい。

そうなんだ、僕は17年間サンフランシスコのベイエリアに住んでいる。とても活気に満ちた素敵な街で、あらゆる文化や国籍を持つ人々と満ち溢れているんだ。僕の両親は電気技師で、ハイテク・ビジネスに携わっているんだけど、僕らはベネズエラのカラカスに住んでいた時に両親がサンフランシスコでの仕事のオファーを受けたんだ。シリコンバレーは世界のハイテクの中心地として有名だよ。だから、僕が10代の頃にここに移って来て、それ以来ここで暮らしている。音楽シーンはとてもいいよ。世界中から来たたくさんの素晴らしいミュージシャンがあらゆる種類のプロジェクトを創造しているし、アーティストとしては最高の場所だね。残念ながら、アメリカのジャズ・マーケットやジャズ・シーンにとっては困難な状況だけど。若い人々と新しい世代にとって人気がある種類の音楽ではないことは明らかだけど、それは周期的なこと、将来は変化するだろうと願っているよ。

★音楽以外に何か特別な趣味はありますか？

絵を描くことが好きで、僕のアルバムの全てのジャケットは僕が描いているんだよ。それと、ハイキングや野外を探索したり、旅をすることも楽しんでいる。

★メインで使用している愛用のギターについて聞かせて下さい。

「DMTギターズ」とエンドース契約を結んでいることはとてもハッピーだよ。彼らはカスタム・メイドでアーチド・トップのジャズ・ギターを作っているんだけど、カリフォルニアのメンドシノに居るギター製作職人デミトリー・テネヴの手作業によるものなんだ。彼らは僕のために2台の特別なギターを作ってくれて、そのギターをメインで使っているんだ。僕の2台のギターは共にレッドウッドのトップス、裏とサイドはクルミ材、ローズウッダーの指板と共に



マホガニーのネックで仕上げられているんだ。弦に関しては、ダダリオのニッケル製ラウンド・ワウンドの12ゲージを使っている。

★あなたの夢や目標は何ですか？

この生涯に出来る限りたくさん音楽を創って、出来る限りたくさんの人たちとそれを共有したいと思っている。芸術は僕らの社会に不可欠で、僕らの人格や個人の成長にとってとても重要な部分だと思うんだ。全ての人間はそれぞれが見つけたあらゆる方法を通してそれぞれが自分自身を表現する必要があるし、また、周りの人々の現実や表現を感じる必要もあると思うんだ。僕の個人的な夢や目標は、出来る限りたくさんの人々とこの世界での僕自身の経験を共有すること。それこそが僕をより良く、よりバランスの取れた人間にしてくれるんだ。

★あなたにとってギターとは何ですか？

総合的にギターと音楽は正に僕の人生だね。それは突き詰めると僕が誰なのかということを示すもので、最も直接的で誠実な方法で僕のメッセージや人生の経験を伝える手段でもあるんだ。

★最後に、「The Walker's」読者と日本のファンにメッセージをお願いします。

「The Walker's」は素晴らしい出版物だよ。そのページでフィーチャーされることはとても光栄だし、謙遜してしまうよ。僕は日本の人々の芸術に対する献身的な姿や愛にもとても感激させられているんだ。そして、「The Walker's」を読むことで、芸術において成し遂げられた素晴らしくとても特別なこと、日本の人々がそれらを存続させようとしている全てのことについて感じて欲しいね。あなたたちなしでは、僕らアーティストのメッセージはけして伝わらないだろう。本当にありがとう！

ハリスト・ヴィチェヴ オフィシャル・ウェブサイト：<http://www.hristovitchev.com/>

ハリスト・ヴィチェヴ・カルテット 2016年ジャパン・ツアー スケジュール

- 2月26日(金) Garden Cafe LIFE TIME (静岡・紺屋町)
- 2月27日(土) TBA (To be announced)
- 2月28日(日) Into The Blue (東京・町田)
- 2月29日(月) KAMOME (神奈川・横浜)
- 3月2日(水) TBA (To be announced)
- 3月3日(木) B Flat (東京・赤坂)
- 3月4日(金) Jazz Live azul (大阪・茶屋町)
- 3月5日(土) Kobe Modern Jazz Festival (兵庫・神戸)
- 3月6日(日) POCHI (兵庫・神戸)
- 3月7日(月) Live Spot RAG (京都・木屋町)
- 3月8日(火) Jazz Club Mr. Kenny's (愛知・名古屋)

ハリスト・ヴィチェヴ・カルテットの最新アルバム



【Song Title】

1. Ballad for the Fallen
2. Wounded By a Poisoned Arrow
3. The Prophet's Daughter
4. They Are No More
5. Familiar Fields, Pt. I
6. Familiar Fields, Pt. II
7. The Mask of Agamemnon
8. The Fifth Season
9. Willing to Live

ファミリヤー・フィールズ
ハリスト・ヴィチェヴ・カルテット
First Orbit Sounds : FOSM-181